夫れ以後、之等2種の勢力が漸次衰乏するに連れ、アカイエカが之等の2舎にも侵入し来り、此処に從來と異なる新社会が形成され、一應平衡状態が保たれるに至つた。(4) アカイエカは8月中旬以降3舎に略々均等に来襲活躍する様になり、8月下旬以降シナハマダラカが姿を見せなくなつてからは、コガタアカイエカのみと平衡関係を保ち、更に9月末でコガタアカイエカも来襲しなくなると共に、3種の小舎を殆んど完全に独占し、10~11の2カ月を引続き吸血活躍した。(5) アカイエカの三種の小舎に於ける♀の吸血：未吸血の状況は、家禽舎では3:1、中家畜舎では1:3、大家畜舎では、1.5:1と云う結果が得られ、中・大家畜舎に於ける吸血歩合は高いものでは無かつた。之に対して中・大家畜舎に於けるコガタアカイエカとシナハマダラカとの♀の吸血歩合、殊にシナハマダラカの夫れは甚だ高率なものであつた。さて、以上を通覧して、本年度当家禽家畜舎で最も顕著な活躍をしたのはアカイエカであり、之とコガタアカイエカ及びシナハマダラカとの間の勢力消長の変遷には、極めて特徴的な興味深い事実が認められた。然し乍ら斯る現象が年々一定したものであるか否かには大いに疑問があるのであつて、殊にコガタアカイエカとシナハマダラカが、一は8月下旬以来、他は9月下旬以来以此処に全く其の姿を見せなくなつたと云う事は、どうも常態である様には思えないのである。而して斯く考えられる原因の重要な一つには、8月の中旬に当地方で甚だ大規模に実施された稻熱病と浮塵子防除の爲のボルドー液、DDT粉剤、BHC粉剤の撒布、並に等しく此の頃当地方を襲った強大な颱風(マージであつたか)の非常に著しい影響が挙げられると考えられるのである。其処で本年は斯る点の解明等に特に重点を置いて重ねて此の調査観察を行つて見たいと思つてゐる。

[香川農大昆虫]

昭和26年東京における蚊の季節的消長について 北岡正見・緒方隆幸・江間 実

Kitaoka, M., Ogata, T. & Ema, M.: Seasonal occurrence of mosquitoes of Tokyo in 1951

1951年は3月下旬より12月末迄本年同様上野動物園の厩と牛舎で日没後壁に止まつている蚊を吸虫管に依り採集した。1人1時間の最高採集数は7月6日の594匹で総採集数は1,985匹で *C. trit.* 38.4%, *A. vex.* 31.7% *C. pip.* 24.6%, *An. hyr.* 4.0%その他9種の蚊が採

集された。尙お最高採集数、総採集数は過去3カ年間の凡そ1/3で一應注目すべきであらう。*C. trit.*の所謂山田の頂は8月1日でこの他5つの起伏が見られ、*A. vex.*は7月6日に最高の山が見られ、9月26日に中等度の山が見られた。*C. pip.*は大体1年を通じて採集されたが全期間中に数回の山が見られた。*An. hyr.*は8月上旬に最も多く、9月下旬に第2の山を描いたがその後12月にも少数採集された。雌雄率は家畜小屋での夜間採集は*C. pip.*の雄のみが採集された。最初に雄の採集されたのは5月18日でこれが越冬蚊の産卵による第1回目の発生でその後週期的に雄の比が高くなつた。吸血率は*C. trit.* 49.2%, *A. vex.* 78.8%, *C. pip.* 24.2%, *An. hyr.* 70.6%で之等の曲線も週期的な数回の山が見られた。*C. pip.*の越冬蚊の活動は3月末より4月始めに最も盛んであり、5月18日が第1回目の一斉羽化に当りその後約7回の一斉羽化が認められた。*C. trit.*, *A. vex.*についても採集数と吸血率の消長から見て*C. pip.*と同様に一斉羽化の現象があるものと思われる。*C. pip.*の産卵状態も短期間であつたが観察を行つたが、一定間隔の消長が見られた。又50年、51年東京都内の女子学生約1500名について各家庭で何時から蚊帳を吊るか調査して見た。これによつて略蚊の発生時期が推定出来るのではないかと考えたからである。

[予防衛生研リケッチャ]

名古屋市の蚊

成田 陽

Narita, Y.: Mosquitoes of Nagoya

昭和26年の名古屋市に於ける蚊の季節的消長と蚊の種類は次のようである。

I. 調査方法 市内西南部の水田地帯の某馬舎で日暮後吸虫管法によつて採集した。

II. 季節的消長 馬小舎侵入蚊はコガタアカイエカが圧倒的に多く次いでシナハマダラカ、アカイエカが多い。其他トウゴウヤブカ、オオクロヤブカが極めて少数採集された。コガタアカイエカの消長は、6月初旬極めて僅かであつたが下旬頃より増加し始め、7月下旬急激に増加し8月10日最高の山となる。昨年の山は7月下旬であつたが本年は10日程遅れている。最盛期は7月下旬から8月上旬の間である。8月下旬より直線的に降下し9月下旬僅少となり10月上旬消滅した。シナハマダラカ、採集率は20%なるも吸血率は88%で最高である。7月上旬より急激に増加し大きな山を作るも一時減少し、その後再び激増して7月下旬最高の山になる。昨